

2023 年 9 月 29 日

The Emerging Markets Weekly

堅調なドルが新興国通貨の重しに

新興国市場:先週末 22 日のアジア時間、FOMC の結果を受けた新興国通貨の下落は一服し大半が小幅な値動きとなった。THB や KRW が堅調。欧州時間はアジア時間の流れが続いたが、米国時間に FRB 高官の発言がタカ派と捉えられドルが上昇、新興国通貨は下押しされた。ZAR は、ハニャホ南アフリカ準備銀行 (SARB) 総裁のタカ派な発言が材料視され前日比+1.1%上昇。週初 25 日、アジア時間はアジア株式市場の軟調に連れて、新興国通貨も概ね下落。THB や INR が値を下げた。欧米時間、米 10 年債利回りの大幅上昇を受けドルも続伸、新興国通貨は売られた。MXN は前日比▲1.1%下落。26 日の新興国通貨も下落。アジア時間は中国大手不動産の債務再編計画を巡る不透明感が新興国通貨全体の重しとなった。KRW や THB が下落。欧米時間、米経済指標が冴えない結果となるも、米 10 年債利回りが 16 年ぶりの高水準をつけ、全面ドル高となった。ZAR と RUB が前日比▲1.0%超下落。27 日のアジア時間、中国人民銀行 (PBoC) は市場予想より基準値を CNY 高に設定するも、引き続きドルの堅調が新興国通貨を圧迫。THB や MYR が下落した。欧米時間、米 10 年利回りの上昇が加速し、ドルも強含んだ。原油価格は上昇するも、資源国通貨への影響は限定的。BRL は前日比▲1.1%下落、MXN も売り優勢となった。28 日のアジア時間の新興国通貨は大半が小幅な値動きにとどまった。THB は財政赤字拡大への懸念や原油高が重しとなり下落。欧米時間、米 4 ～6 月期実質 GDP 成長率の確報値が発表され、個人消費が大幅に下方修正されたことなどを受けて米金利上昇が一服。ドルは軟化し、新興国通貨は反発。ZAR は前日比+1.2%上昇。MXN もメキシコ中央銀行 (Banxico) が政策金利を据え置いたことを受けて堅調に推移した。

アジア:22 日に発表のマレーシア 8 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+2.0%と 7 月から横ばいとなり、市場予想通りとなった。25 日発表のシンガポール 8 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+4.0%と 7 月から鈍化したが、市場予想通りの結果。タイ中央銀行 (BOT) は 27 日に政策金利を 25bp 引き上げ、政策金利を 2.50%とした。利上げが全会一致で 8 会合連続。THB は一時上昇で反応するも、すぐに元の水準に押し戻された。PBoC は 27 日に四半期貨幣政策委員会後に声明を発表した。為替相場に関しては「為替市場の一方的な動きを是正する」とし、改めて CNY 安に対して警戒感を示した。

ラテンアメリカ:ブラジル中央銀行 (BCB) は 26 日に金融政策会合 (9 月 19 ～20 日開催) の議事要旨を公表した。議事要旨では「金融政策の調整のペースを一段と強めるには、将来的なデフレーションに対する信頼を向上させるサブライズが必要だ」と述べられ、利下げペースが現在の 50bp から加速する可能性は低いとされた。Banxico は 27 日、政策金利を市場予想通り 11.25%に据え置くことを決定した。据え置きは 4 会合連続。Banxico はインフレへの警戒姿勢を強め、利下げへ慎重な姿勢を示した。

金融市場部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhc.co.uk

市場概観(インド)

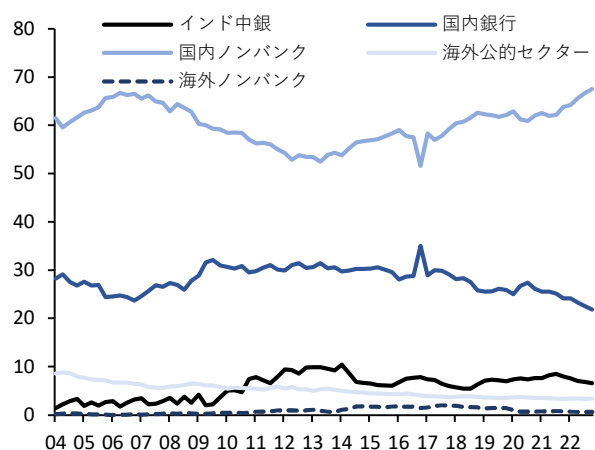
新興市場債券指数へのインド国債の組み入れが決定

金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

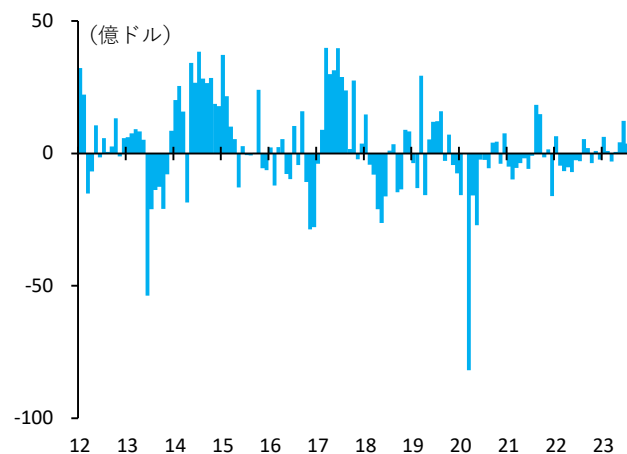
21 日、米大手銀行のJPモルガン・チェースは、新興市場債券指数(JPMorgan Government Bond Index-Emerging Markets)にインド国債を組み入れることを発表した。なお、組み入れは、2024 年 6 月 28 日から開始される予定だ。ここ数か月、組み入れに関する観測報道は米メディアを中心に散見されたので、全く新しい話というわけではない。インド自体も、数年にわたり指数への組み入れに向けて行動を起こしており、2020 年には一部の国債に対して課されていた外国投資制限を撤廃するなど、国債市場の開放に向けて前向きな姿勢を示していた。人口増加や経済成長が著しい中、グローバル・サウスの盟主としての自認を深めるなど国際的な存在感が急速に高まっている現状を踏まえると、妥当な決定と言えそうだ。実際、インド株式は断続的に史上最高値を更新するなどインド経済に対する期待感は今までになく高まっており、すでにインド国債市場に対する市場の注目は相応に高いものと推察される。本欄では、本決定の金融市場に対する影響、特に INR 相場への含意を説明したい。

まず、現状のインド国債市場の参加者について確認する。図表 1 に示す通り、インド国債の特徴は、そのほとんどが国内で消化されているということだ。国内のノンバンクが 70%近くも保有しており、海外投資家による保有はわずかに 4%に過ぎない(海外公的機関も含む)。The Institute of International Finance が公表するクロスボーダーの債券投資フローを確認しても、域内への資金流入は低位にとどまっているのが現状だ(図表 2)。JPモルガン・チェースによれば、インド国債は新興市場債券指数で最大 10%のウェイトを占めることになるとも公表しており、相応の海外投資家がインド国債の保有を始めることになりそうだ。ブルームバーグは、ある金融機関は最大 300 億ドルの資金流入を想定しているとも報道している。

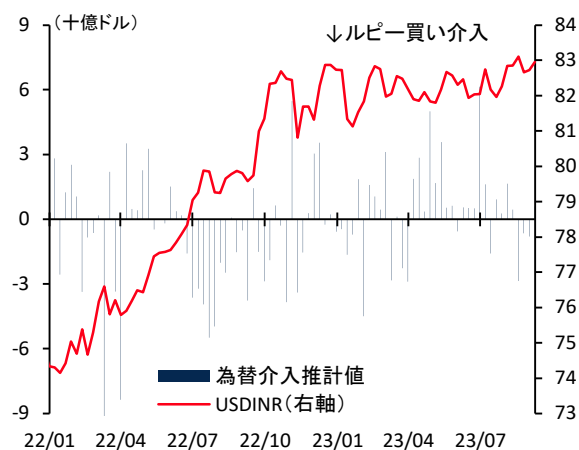
実際の組み入れは来年でありまだ先の話だが、域内の国債市場への大規模な資金流入はINR 買い圧力となるだろう。これがもし短期間に集中する場合、一時的であろうと強いINR 高要因になることが推察される。ただし、最近のインド準備銀行(RBI)の為替介入実績を確認すると、INR 相場の安定化を強く意識している可能性が高い(図表 3)。もし現在のスタンスが続けば、インド国債の組み入れにより一時的にINR 買いが強まったとしても、RBI がINR 売りの為替介入を行う可能性も十分にある。そういった観点で、インド国債の指数への組み入れが短期的にINR の大きな上昇をもたらすとは考えていない。もっとも、継続的な資金注入が見込まれる中、インド株式市場と同様に、中長期的にはINR の下支えとなるだろう。

図表 1: インド政府債務の保有割合 (%)


出所: IMF、みずほ銀行

図表 2: クロスボーダーの債券投資フロー


出所: IIF、みずほ銀行

図表 3: RBI による為替介入の推計値


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

9 月金融政策会合～インフレ再加速を受けて 利上げ再開の可能性を示唆

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

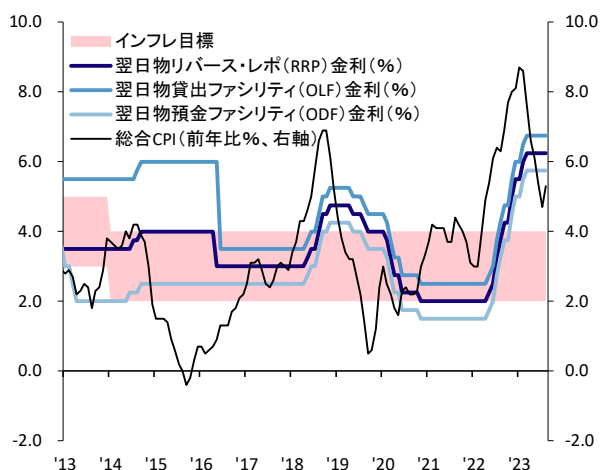
フィリピン中央銀行(BSP)は21日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートに従来の6.25%に4回連続で据え置いた(図表1)。また、上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも変動なく、それぞれ6.75%と5.75%となった。なお、ブルームバーグの事前予想でも、現状維持が有力であった。

声明文では、国内のインフレへの警戒を強める内容が見られた。直近公表の8月消費者物価指数(CPI)は前年比+5.3%と7月の同+4.7%から加速した(図表2)。7月まで6か月連続で減速していたが、8月はまとまった幅での上昇となった。内訳を見ると、供給網の混乱により食料品価格が上昇したこと、燃料価格高騰が再発し輸送・光熱費が上昇したことが影響した格好だ。片や、食料品・燃料を除くコアCPIは同+6.1%と7月から▲0.6%ポイントの下落、懸念されたサービス価格の高止まりは改善に向かっている。BSPはインフレ見通しを更新し、23年は前年比で+5.8%、24年を+3.5%、25年を+3.4%とした。25年は不変であったものの、23年、24年については、それぞれ8月時点から+0.2%ポイント上方修正された。今後のインフレ材料として、気候変動とエネルギー価格の上昇を指摘した。

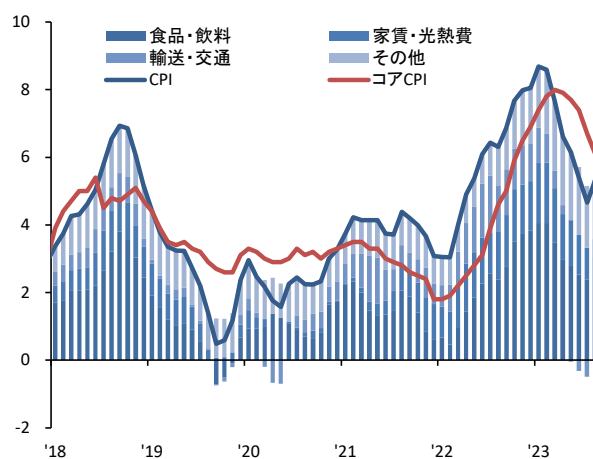
かかる中、BSPは前回8月会合に続きインフレの再燃に注意を払う格好で政策金利を据え置いた。レモロナBSP総裁は会見にて、現時点では利上げ休止が適切としたが、インフレ期待上振れ続けば利上げを再開するとし、あくまで「タカ派な現状維持」であることを強調した。物価安定に向けては輸入関税の一時的な引き下げなど政策対応の必要性を主張し、政府への協調を求めた。

また、足許で確認されている資源価格の上昇は実需のPHP売りを加速させている可能性が高い。4～6月期経常収支は▲35億ドルの赤字を記録しており、その間の貿易赤字は▲162億ドルと大きく足を引っ張る格好となっている(図表3)。パンデミック時に資源価格が暴落して一時的に経常収支も黒字転化していたが、その後はむしろコロナ禍以前よりも高水準を推移していることもあり、フィリピンの経常赤字は拡大傾向にある。

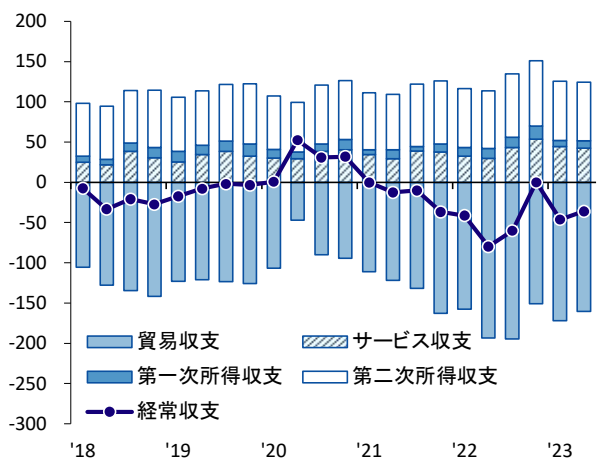
PHPの動向については、原油価格と一定の相関が見られる中で、資源価格の高止まりが続く状況はPHP安要因と整理すべきであろう(図表4)。今回の政策決定は形式的にはインフレ再加速に対してのタカ派維持という対応であったが、9月FOMCを終えてFRBも当面はタカ派を継続することが見込まれる中で、年初来安値圏を推移するPHPの動向にも注意を払った上での決定であると見られる。その一方で、国内経済の減速を受けて景気にも配慮する必要も強まっており、BSPの政策運営の舵取りも徐々に難しくなっている印象を受ける。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標


出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 経常収支の推移(億ドル)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: PHP と原油価格の動向


出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

9 月金融政策会合～引き続き国内経済・外部環境の動向を見極め

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 20～21 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 5.75%に維持した(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファンリティ金利と下限金利の翌日物預金ファンリティ金利もそれぞれ 6.50%、5.00%に据え置いた。BI は 22 年 8 月以降、合計+225bps の利上げを行ったのち、8 会合連続で政策金利を維持。なお、ブルームバーグの事前予想でも、各種政策金利の据え置きが優勢であった。

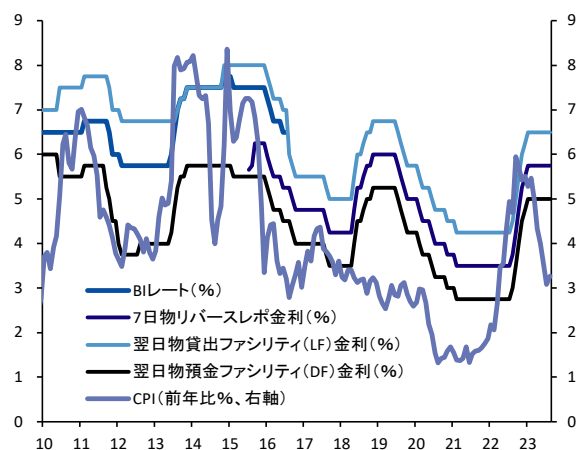
声明文及びペリーBI 総裁の会見では、23 年の世界経済成長予想に関し、前回会合に続き前年比+2.7%の予想を据え置いた。米国の堅調な景気動向を前向きに捉えた一方で、中国経済の失速への警戒感を緩めなかった。また、国内経済については、内需主導で底堅さを保っているとし、公共投資の拡大も今後の経済成長を下支えするといった見方を示した。一方で、先行き不透明感が強まっているのが外需部門であり、直近 7 か月連続で前年割れが続いている(図表 2)。特に近年シェアを増大させている中国向けの輸出が軟調に推移していることが影響したほか、商品価格の頭打ちも足許の貿易黒字縮小に寄与している。今期中の貿易赤字への転落は想定しないが、昨年程の黒字計上も見込めない状況だ。なお、BI は今年の成長率予想を従前の前年比+4.5～+5.3%に据え置いている。

物価動向について、直近公表の 8 月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.3%と 7 月から加速も、BI の定める目標レンジ(+2.0%～+4.0%)中央付近での推移となっている(図表 3)。インフレ再加速は食料品価格の上昇が影響したが、ベース効果を含む一時的な要因であるとの見方が強い。なお、変動の大きい食品を除いたコア CPI は同+2.2%と 7 月から▲0.2%ポイントの減速。BI はインフレ収束に手応えを示しており、24 年のインフレ目標は従前の+2.0～+4.0%から+1.5～+3.5%へ引き下げられることが発表された。

ペリーBI 総裁は、金融市場の不確実性が世界的に強まる中で、金融政策は引き続き IDR 相場の安定性維持を重視しているとした。直近の IDR 相場を見れば 3 月以来の安値を記録しており、外貨準備の水準を見ても足許において IDR 高方向への介入が増えている印象を受ける(図表 4)。9 月 FOMC を終えて FRB も当面はタカ派を継続することが見込まれる中で、IDR を含め新興国通貨が全般的にドル高に押される時間帯は今後も出てくるであろう。

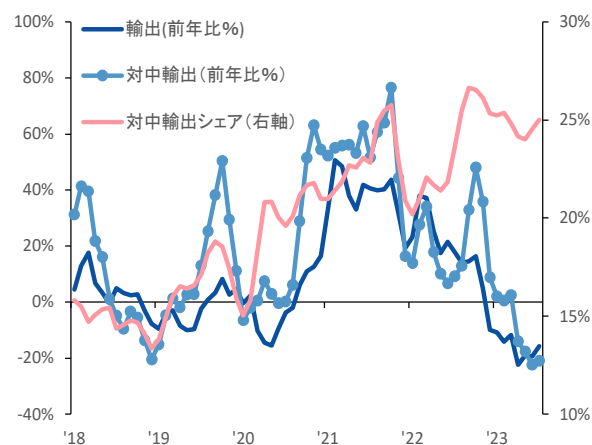
しかし、国内のインフレ動向及び景気動向に鑑みれば、積極的な引き締めに至る材料に乏しく、BI は国内経済と外部環境の動向を見極める判断を下したように思われる。前回会合で BI は保有国債を裏付けとする IDR 建ての新証券を発行する計画を公表したが、本証券の入札は好調の様である。まずは利上げに頼らず、この新証券の利用も含めた公開市場操作や為替介入を通じて IDR 相場の安定化を図る方針であると考えられる。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



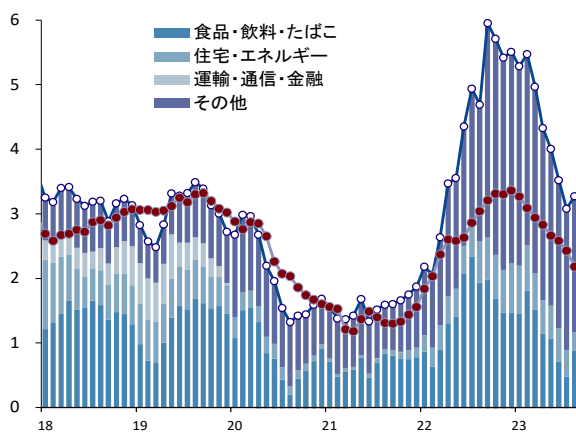
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 輸出実績と対中貿易のシェア



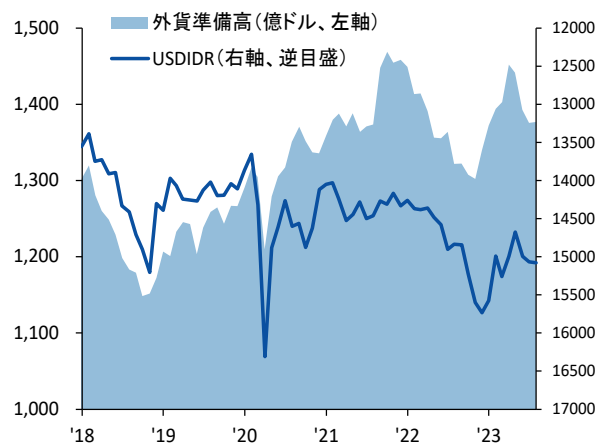
出所: Bloomberg、みずほ銀行 注: 後方 3 か月移動平均

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%, %ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: IDR 相場と外貨準備高の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(タイ)

9 月金融政策委員会～今回会合で利上げは打ち止めか

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

タイ中央銀行(BOT)は27日に金融政策委員会を開催し、政策金利を従来の2.25%から2.50%に引き上げた(図表1)。委員会メンバーの全会一致での決定となり、政策金利は2013年以来の高水準をつけた。政策金利の引き上げは8会合連続での実施となり、利上げ幅は従前の25bpsを維持した。ブルームバーグの事前予想では現状維持の予想が有力であった。

BOTは今回会合において、経済・物価見通しを更新した(図表2)。23年の実質GDP成長率は前年比+2.8%と前回時点からまとまった幅で下方修正されている。声明文では外需の減速によって、財・サービスの輸出が予想を下回ったこと、中国経済の減速したことを主な要因として指摘した。片や、24年については、同+4.4%に上方修正されており、堅調な個人消費(同+4.6%)と外需の底打ちを機に観光関連産業の本格再開がタイ経済を支えていくことに期待感を示した。外国人観光客の受入予想は従前から大きな変更はなく、かかる想定の下で、サービス収支の改善及び経常黒字幅の拡大を見込んでいる。

物価動向に関しては、直近の8月消費者物価指数(CPI)が前年比+0.9%と8か月ぶりに加速した(図表3)。生鮮食品とエネルギー価格を除いたコアCPIも同+0.8%とこちらは7月の同+0.9%から減速した。先行きについて、23年は引き続き政府による補助金と昨年からのベース効果の影響でインフレ率が低くなるとの見方を示した。一方で、BOTは異常気象などによる作物の生産不振に起因した食料品価格の再上昇、エネルギー価格のボラティリティ上昇など複数のインフレ要因を指摘しており、24年のインフレ率はコアベースでは据え置きとなったものの、総合ベースでのインフレ予想は小幅に引き上げられた。

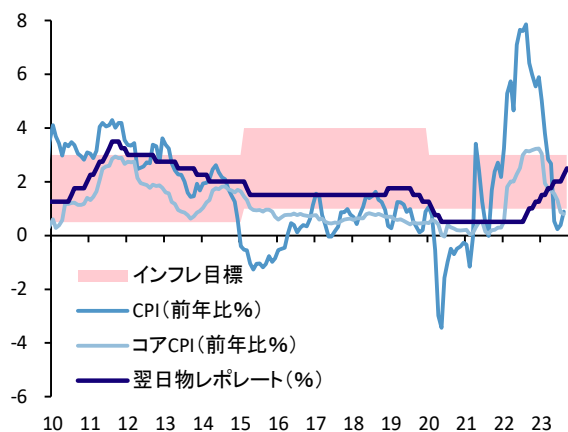
かかる中、BOTはインフレ率を持続的に目標レンジ内に維持し、経済・金融市場の安定を促すことに加えて、先行き不透明な外部環境の下で十分な政策余地を確保する必要があると総括し、利上げの継続を決定した。また、政策金利は中立的な水準に到達したとし、タイ経済の長期的かつ持続可能な成長を実現する上で適切であるといった旨の情報発信も見られ、市場ではBOTの利上げサイクルが一巡したとの見方が広がっている。

本稿作成時点でTHBは36台後半での取引となっており、年初来安値を断続的に更新する地合いとなっている(図表4)。タイ政府は本会合の前にTHB安は財・サービスの輸出の追い風となるとしていたが、BOTの見解に沿えば、THB安のプラス面よりも、THB安に伴う輸入物価上昇を通じたインフレ再加速に警戒する必要性が増しているように思われる。BOTは今回の利上げが足許のTHB安進行によるものではないと説明したが、仮に市場が通貨安を意識した利上げと解釈した場合には、今後THB売りを通じて更に利上げを催促するような動きが出る可能性も考えられ、そう言わざるを得なかった事情も垣間見える。

THBは他のASEAN通貨と比較しても9月に入り値を下げており、本欄では足許の通貨安を受けた決定であったとも考えているが、内需が24年にかけて緩やかな減速を見込んでいる中で利上げ余地も狭まっている様に思われる。9月FOMCにおいて

FRB はタカ派姿勢を維持し、年末にかけても随所にドル高が意識される時間帯が出てくると見られ、THB の安定性維持は政策運営の中でも優先度が高まりそうだ。

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



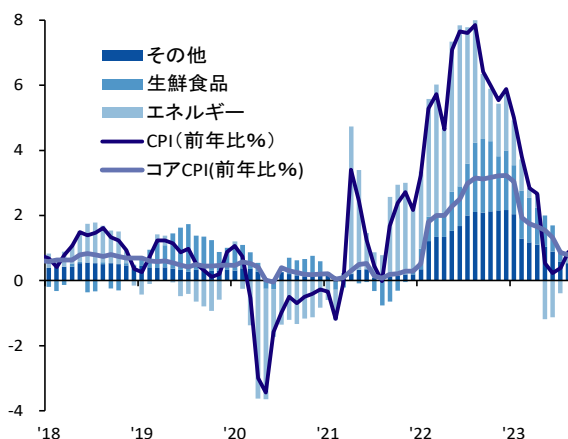
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: BOT の経済・物価見通し (前年比%)

	2022	2023	2024
実質GDP成長率	2.6	2.8 (3.6)	4.4 (3.8)
CPI	6.1	1.6 (2.5)	2.6 (2.4)
コアCPI	2.5	1.4 (2.0)	2.0 (2.0)
経常収支 (億ドル)	▲147	50 (60)	100 (125)
外国人観光客数 (万人)	1120	2850 (2900)	3500 (3550)
原油予想価格 (ドル)	96.5	83 (86)	85 (90)

出所: BOT 注: カッコ内は 23 年 4~6 月期時点の予想値

図表 3: CPI の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

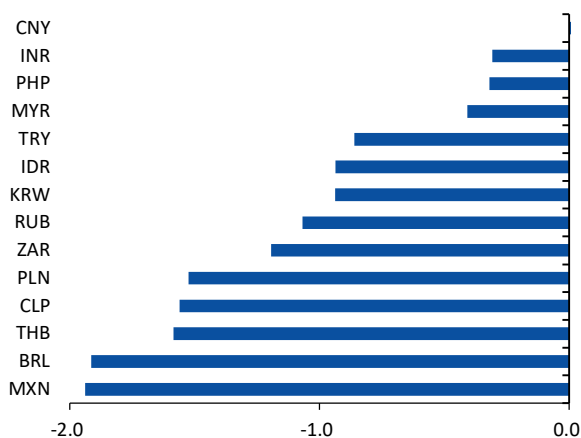
図表 4: THB 相場動向



出所: Bloomberg

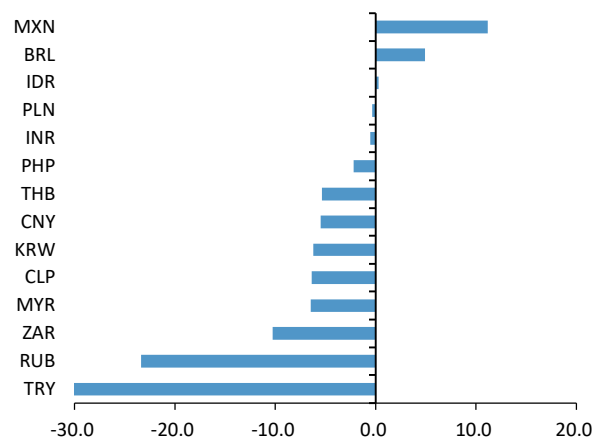
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



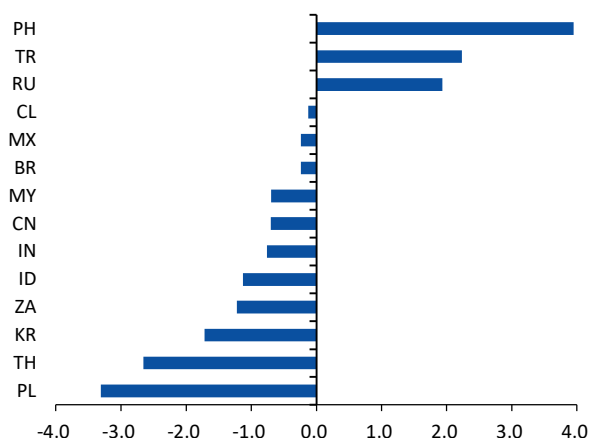
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



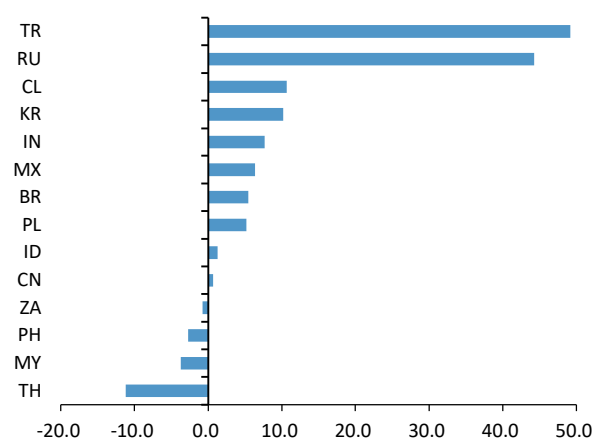
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



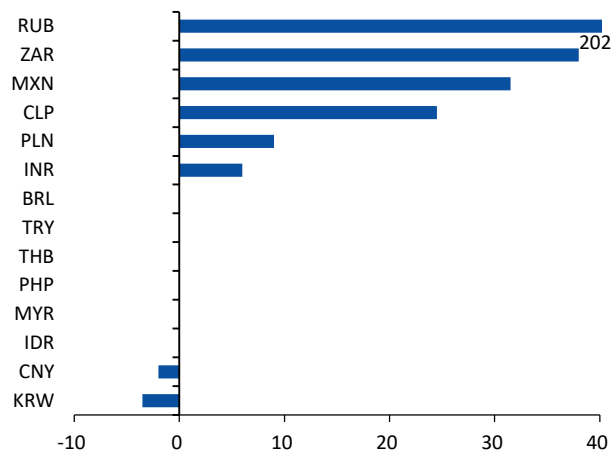
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

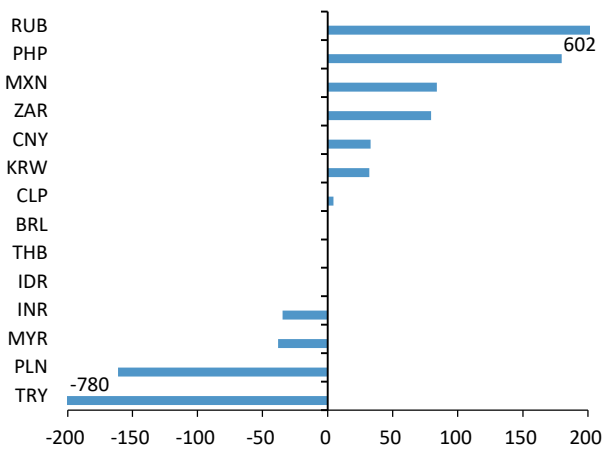
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

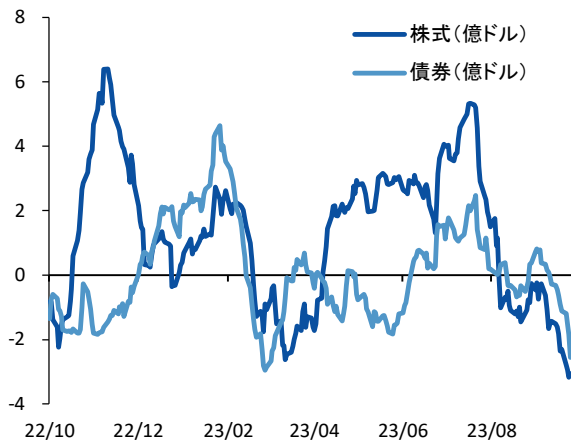


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

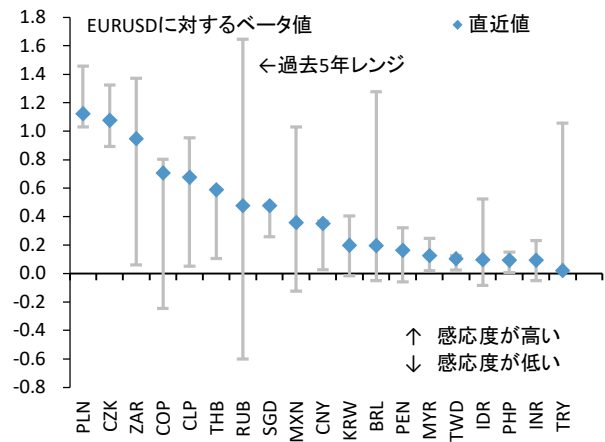
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



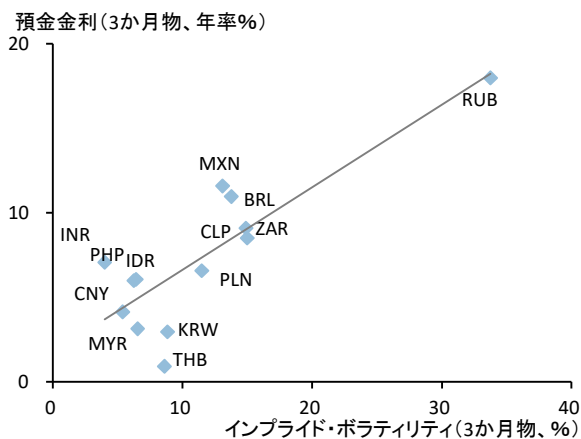
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



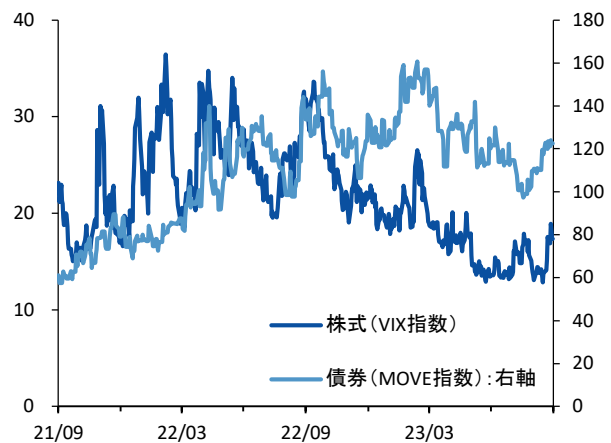
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



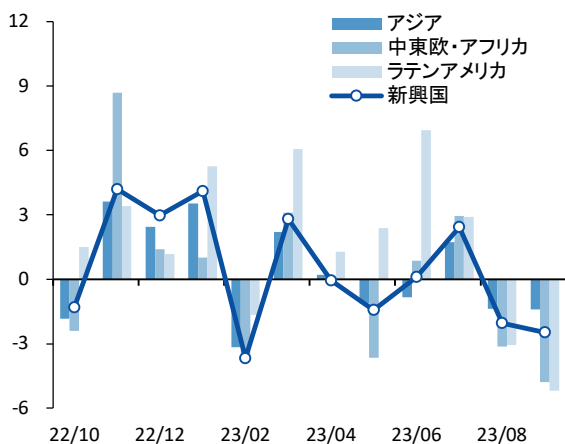
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



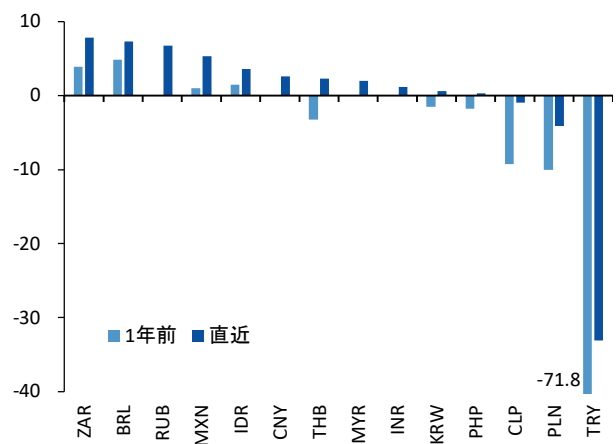
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
9月25日 (月)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	-133.0b	-47.8b	--
25日 (月)	シンガポール	CPI(前年比)	4.0%	4.0%	4.1%	--
26日 (火)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$1761m	\$360m	-\$1978m	-\$1978m
26日 (火)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	-3.1%	-12.1%	-0.9%	-1.1%
27日 (水)	韓国	景況判断(非製造業)	--	77	76	--
27日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	67	69	--
27日 (水)	中国	工業企業利益(前年比)	--	17.2%	-6.7%	--
27日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	2.25%	2.50%	2.25%	--
29日 (金)	タイ	国際収支・経常収支	\$500m	--	-\$445m	--
30日 (土)	中国	製造業PMI	50.1	--	49.7	--
30日 (土)	中国	非製造業PMI	51.5	--	51.0	--
10月1日 (日)	韓国	貿易収支	--	--	\$870m	\$879m
1日 (日)	中国	Caixin中国製造業PMI	51.2	--	51.0	--
1日 (日)	中国	Caixin中国PMIサービス業	52.0	--	51.8	--
2日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	2.1%	--	3.3%	--
3日 (火)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	49.9	--
4日 (水)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	-8.0%	--
5日 (木)	韓国	CPI(前年比)	--	--	3.4%	--
5日 (木)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	5.3%	--
5日 (木)	タイ	CPI(前年比)	--	--	0.9%	--
5日 (木)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	1.1%	--
5日 (木)	台湾	CPI(前年比)	--	--	2.5%	--
6日 (金)	インド	RBI政策金利	--	--	6.50%	--
中東欧・アフリカ						
9月25日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	77.3%	76.1%	--
25日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	104.4	105.0	--
27日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	4.2%	5.4%	4.9%	--
27日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	10.0%	11.0%	10.5%	--
28日 (木)	南ア	PPI 前年比	3.7%	4.3%	2.7%	--
29日 (金)	トルコ	貿易収支	-8.90b	--	-12.22b	--
29日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	8.0b	--	16.0b	--
29日 (金)	ロシア	経常収支	--	--	8600m	8300m
10月3日 (火)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	58.9%	--
3日 (火)	トルコ	PPI 前年比	--	--	49.4%	--
5日 (木)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	4.9%	--
ラテンアメリカ						
9月25日 (月)	ブラジル	経常収支	-\$1750m	-\$778m	-\$3605m	--
25日 (月)	ブラジル	海外直接投資	\$5000m	\$4270m	\$4244m	--
26日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.4%	0.4%	0.3%	--
27日 (水)	メキシコ	貿易収支	-1452.3m	-1377.1m	-881.2m	--
28日 (水)	メキシコ	オーバーナイト・レート	11.25%	11.25%	11.25%	--
29日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	59.9%	--	59.6%	--
10月3日 (火)	メキシコ	送金総額	--	--	\$5651.5m	--
3日 (火)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$9767m	--
3日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-1.1%	--
3日 (火)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	--	--	28.8%	--

注: 2023 年 9 月 29 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2023年 1～8月（実績）	SPOT	2023年 9月	12月	2024年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.6910 ～ 7.3175	7.2980	7.25	7.15	7.10	7.05	7.00
香港ドル	(HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8294	7.84	7.84	7.83	7.81	7.78
インドルピー	(INR)	80.883 ～ 83.163	83.193	83.6	82.0	83.8	82.2	80.5
インドネシアルピア	(IDR)	14565 ～ 15643	15520	15500	15050	15280	14800	14600
韓国ウォン	(KRW)	1216.30 ～ 1343.42	1356.60	1330	1320	1310	1280	1250
マレーシアリングギ	(MYR)	4.2250 ～ 4.6918	4.7080	4.62	4.51	4.57	4.45	4.35
フィリピンペソ	(PHP)	53.628 ～ 56.976	56.974	56.6	54.8	55.0	53.8	53.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3032 ～ 1.3625	1.3655	1.35	1.34	1.36	1.34	1.32
台湾ドル	(TWD)	29.608 ～ 32.012	32.243	31.7	31.5	31.2	30.6	30.0
タイバーツ	(THB)	32.57 ～ 35.74	36.54	35.0	33.8	33.9	32.7	32.5
ベトナムドン	(VND)	23415 ～ 24190	24400	24200	23700	24100	23600	23400
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	67.0415 ～ 102.2300	96.6188	96.0	98.0	100.0	102.0	104.0
南アフリカランド	(ZAR)	16.6950 ～ 19.9204	18.9884	19.0	18.8	19.0	19.2	19.4
トルコリラ	(TRY)	18.4339 ～ 27.3069	27.4481	26.0	24.0	22.0	24.0	26.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.6967 ～ 5.4798	5.0334	4.95	5.00	5.05	5.10	5.10
メキシコペソ	(MXN)	16.6262 ～ 19.5882	17.5459	17.0	17.8	18.2	18.5	18.7
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.793 ～ 20.201	20.424	20.14	20.56	20.42	20.28	20.14
香港ドル	(HKD)	16.295 ～ 18.780	19.058	18.62	18.75	18.52	18.31	18.12
インドルピー	(INR)	1.559 ～ 1.782	1.794	1.75	1.79	1.73	1.74	1.75
インドネシアルピア	(100IDR)	0.831 ～ 0.967	0.962	0.942	0.977	0.949	0.966	0.966
韓国ウォン	(100KRW)	9.915 ～ 11.194	10.997	10.98	11.14	11.07	11.17	11.28
マレーシアリングギ	(MYR)	29.106 ～ 31.698	31.730	31.60	32.59	31.73	32.13	32.41
フィリピンペソ	(PHP)	2.325 ～ 2.625	2.621	2.58	2.68	2.64	2.66	2.64
シンガポールドル	(SGD)	96.55 ～ 108.56	109.29	107.91	109.46	106.77	106.72	106.82
台湾ドル	(TWD)	4.205 ～ 4.663	4.627	4.61	4.67	4.65	4.67	4.70
タイバーツ	(THB)	3.770 ～ 4.184	4.085	4.17	4.35	4.28	4.37	4.34
ベトナムドン	(10000VND)	0.5430 ～ 0.6146	0.6116	0.60	0.62	0.60	0.61	0.60
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.422 ～ 1.948	1.545	1.52	1.50	1.45	1.40	1.36
南アフリカランド	(ZAR)	6.909 ～ 8.070	7.861	7.68	7.82	7.63	7.45	7.27
トルコリラ	(TRY)	5.108 ～ 7.482	5.419	5.62	6.13	6.59	5.96	5.42
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.723 ～ 30.405	29.612	29.49	29.40	28.71	28.04	27.65
メキシコペソ	(MXN)	6.651 ～ 8.778	8.505	8.59	8.26	7.97	7.73	7.54

注: 1. 実績の欄は 2023 年 8 月 31 日まで。SPOT は 9 月 29 日の 7 時 40 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。